

2022 TOEIC[®] セミナー 報告書

大学の英語教育 × TOEIC[®] Program

～学生の将来を後押しする大学の取り組み～

2023年2月16日(木)

大学の英語教育 × TOEIC® Program

～学生の将来を後押しする大学の取り組み～

2023年2月16日(木) オンライン開催

基調講演 1

日立造船が求めるグローバル人材とは

日立造船株式会社 業務管理本部 人事部 人材開発グループ・グループ長 北村 歩 氏

事例発表 ① 京都産業大学 5

TOEIC® Programを活用した 共通教育英語カリキュラムの10年

京都産業大学 共通教育推進機構 教授 全学必修英語教育主任 松永 舞 氏
京都産業大学 共通教育推進機構 准教授 TOEICクラスコーディネーター 増田 将伸 氏

事例発表 ② 熊本大学 10

熊本大学工学部の卒業研究着手要件への TOEIC® L&Rスコア導入の挑戦と成果 ～工学部だからこそ求めたい実践的英語教育～

熊本大学 大学院先端科学研究部 教授 藤吉 孝則 氏

事例発表 ③ 近畿大学 15

国際学部における早期全員留学の制度と TOEIC® Testsの活用

近畿大学 国際学部 教授 国際学部長補佐・教務委員長 高木 宏幸 氏
近畿大学 国際学部 教授 国際学部留学委員長 大村 吉弘 氏

主催：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

日立造船が求めるグローバル人材とは

日立造船株式会社

業務管理本部 人事部 人材開発グループ・グループ長 **北村 歩氏**



■ 主力の環境・プラント事業を 国内外で展開

本日の内容は、①日立造船グループについて、②日立造船グループが求めるグローバル人材、③教育体制、④課題と今後の取り組み、最後に⑤職員に実行して欲しいことの順番でご説明します。

まず会社概要ですが、1881年に創業し、2023年4月に142周年を迎えます。連結売上高は4,417億円、従業員数は11,540名です。大阪本社ではコーポレート部門、設計部門などに従事する約1,800名が、東京本社では営業部門を中心に約500名が働いています。この他、支社5カ所、営業所と事業所が計17カ所あります。製造拠点は熊本の有明工場、大阪の堺工場、京都の舞鶴工場など8拠点ですが、最大規模を誇る有明工場では、船用エンジンやプロセス機器、原子力機器などを製造しています。

次に沿革についてですが、当社は1881年、イギリス人のエドワード・ハズレット・ハンターにより大阪鉄工所として創業し、造船事業に乗り出しました。当時は富国強兵の掛け声のもと近代的な工業が生まれ、海上輸送が重要な輸送手段として発展した時代でもあります。1936年、日立製作所グループに入り、1943年、日立造船株式会社に社名を変更しました。終戦後の財閥解体で、当社は解体寸前まで追い込まれましたが持ちこたえ、1946年に日立グループから独立しました。その際に社名を創業時の大阪鉄工所に変更しようとしまし

たが、国の承認が得られず、現在も日立造船の名称を使用しています。

1970年代の世界の新造船建造量は日本が46%、韓国が2%でしたが、1990年代後半には日本が39%、韓国が34%と韓国に追い上げられていきます。さらに円高も加わり2002年、祖業である造船事業を分離しました。

続いて事業展開の背景です。造船事業で培った技術とノウハウを発展させて、各種プラントやごみ焼却発電施設、プレス機械、製鉄機械などの新たな技術を世に送り出してきました。ごみ焼却発電施設を主要事業に、水素と二酸化炭素からメタンを合成するメタネーション設備、JAXAとともに世界初となる宇宙での実証実験に取り組んでいる全固体リチウムイオン電池、風力発電事業などにも取り組んでいます。

売上高比率としては、事業別では環境関係が69%、その他事業が31%です。国内外別でみると、国内が65%、海外が35%を占めています。将来的には海外事業をさらに拡大し、売上高比率を50%まで高めていきたいと考えています。

ごみ焼却発電施設数は、全世界で合計1,000施設以上にもおよぶ世界ナンバーワンの事業ですが、脱炭素化事業などの成長事業と合わせて、企業理念である「私達は、技術と誠意で社会に役立つ価値を創造し、豊かな未来に貢献します」を実現してまいります。

当社の事業をグローバルに展開していくため、アメリカ、UAE、インドなど10カ所に12事業所・拠点が

ます。関係会社は約60社あり、カナダ、アメリカ、イギリス、フランスなどに展開しています。資料1に主な製品納入先をマッピングしています。今後も多くの製品をさまざまな国へ納入し、社会貢献をしていきたいと考えています。なお、外国籍職員はマレーシア、インドネシア、ベトナムといったさまざまなバックグラウンドを持つ約100名が働いており、入社後のフォローとして日本語研修などを提供しています。

(資料1)



■ グローバル人材を育成するために

海外売上高比率50%達成を実現させるためには、海外事業会社の経営や経営をサポートできる人材を育成・確保することが必要です。そこで求められる人材像としては、①海外グループ会社のマネジメントができ、②海外企業のM&Aを行った際には地元職員や地域社会から信頼される経営を行うことができ、③国内外の事業からシナジー効果を拡大させることでプラスアルファの成長を生み出し、さらには④海外拠点での営業活動や情報収集などに力を発揮してくれる人材です。

そうしたグローバル人材には、異なる言語文化や価値観を乗り越えて、良好な人間関係を構築することができる能力が必要です。具体的には、①世界規模で物事を捉え実践することができる、②仕事の成果や自分のミッションに対して強烈な執着心を持ち続けることができる、③多様な視点やグローバルダイバーシティの意識を持ち、柔軟に物事を考え価値を創造するアイデアを発信することができる人材です。

その役割は、グローバルでの経営や事業管理にあたるマネジメント人材と、グローバルマネジメント人材の下で現地事業の推進・実行にあたるグローバル業務人材に分けることができます。グローバル人材の活躍の場は、事業マーケットのある国、地域であり、全世界を視野に事業を展開していきます。グループ各社の事業内容や事業形態から適材を配置し、OJTも含め育成をしていきます。

グローバル人材として求められる要件や能力は、社会人に求められる基礎能力はもちろんのこと、語学力を含めたコミュニケーション能力、異文化の違いを理解する力、信頼を得るための卓越した専門能力が必要となります。育成にあたっては、ビジネス知識能力や戦略構築・推進力、リーダーシップなど、国内外を問わず必要となる基本能力に加え、現地理解としては、言語のみならず歴史や宗教についての見識を深めることも重視します。また、精神力や適応力、目標達成への執着心も必要になってくると考えます。

教育研修制度ですが、「あるべき人材像」に向けた中長期的な人材育成計画である「キャリアプラン」を設定し、それに基づき、職員の育成段階に応じた計画的、継続的、長期的な人材育成を行うことを目的としております。

人材育成では、各階層別に職務遂行に必要な、①テクニカル・スキル、②ヒューマン・スキル、③コンセプト・スキルの3つを身に付けられるよう、プログラムを体系化しています。その内容は多岐にわたっていますが、今日は語学・海外研修派遣について説明します。

グローバル人材育成に関わる研修や制度としては、社内英語検定試験、内定者向け英語教育、各種語学研修、海外研修派遣制度があります(資料2)。TOEIC® Listening & Reading Test(以下、TOEIC L&R)については、社内英語検定試験と内定者向け英語教育で活用しています。

(資料2)

当社の研修体系 ② (グローバル人材育成に関わる研修・制度) Hitz

グローバル人材育成に関わる当社の研修・制度

- **社内英語検定試験 (TOEIC L&R)**
国際化教育の一環として実施。現時点の自分の実力を知り、英語力向上へのきっかけをつくる。点数に応じてランクを定め、高得点者には賞状・表彰金を授与。
- **内定者向け英語教育 (TOEIC L&R・英語教材斡旋)**
グローバル人材に対する需要が高まっていることから、2021年度より実施。内定者全員に入社前にTOEIC L&Rを受験させ、英語学習に取り組むきっかけをつくる。英語教材に申込・受講した者には、受講終了後にもTOEIC L&Rを受験させ学習効果を測定。
- **各種語学研修**
職員の語学力強化のため、各種プログラムを年間通じて実施。外国籍職員向けの日本語研修なども用意。
・英語集中合宿・英文ライティング講座・基礎英文ライティング講座・中国語会話講座・日本語会話講座
・日本語ビジネスライティング講座・英語プレゼンテーション研修・英語ミーティング・ディスカッション研修・英語基礎力強化研修
- **海外研修派遣制度** ※2020年度よりコロナの影響により実施中断。新規企画検討中
若手職員を対象に海外事務所・現地法人で実務研修を行うとともに、国際的な視野の拡大、語学能力の向上(英語、中国語等)、異文化体験等につなげる。
海外事業拡大に向けた当社職員の意識改革(海外志向の高揚)を図るとともに、海外委員の育成研修として実施。

■ TOEIC® L&Rを 入社10年目まで必須受験

まず社内英語検定試験ですが、資料3の通り、現時点における自分の実力を知り、英語力向上のきっかけとすることが目的です。

(資料3)

社内でのTOEIC L&Rの活用①(社内英語検定試験) Hitz

社内英語検定試験

狙い
現時点の自分の実力を知り、英語力向上へのきっかけをつくる機会とする

概要

- **試験内容**
TOEIC L&R IP テスト
- **受験対象者**
原則としてHitz全役職員(海外勤務者除く)。ただし、以下に該当する者は必ず受験。
必須受験対象
① 新卒入社10年目までの専任職(主事含む)職員
(中採者は新卒10年目までに相当する者)
② 過去5年間に英語集中合宿・各種英文ライティング講座を受講した者

職員は誰でも受験可能ですが、新卒入社10年目までを必須としています。独自の英語能力基準で860点以上は特級、650点以上860点未満は1級など点数に応じた等級を設けています(資料4)。この特級と1級取得者には表彰状と賞金を授与し、職員が常にモチベーションを保ちながら学習を継続できるようなインセンティブを提供しています。社内英語検定における2013年以降のTOEIC L&Rの平均点の推移としては、500点以上をキープしているものの横ばい状態が続いています。1級以上の比率は20~30%ですが、今後底上げを図り、高得点者も増やしていきたいと考えています。

(資料4)

社内でのTOEIC L&Rの活用①(社内英語検定試験) Hitz

- **級(Hitz取扱) (点数に応じて級を設定)**
特級……860点以上
1級……650点以上860点未満
2級……470点以上650点未満
3級……350点以上470点未満
- **その他**
1級以上認定者は、次のとおり取扱う
・表彰状・賞金を授与
・主事(係長級)昇格への必要単位を付与

職員がモチベーションを保ちながら学習を継続できるような機会を提供

■ 入社前のTOEIC® L&R受験で 英語学習のきっかけに

続いて内定者向けの入社前教育です(資料5)。内定者全員に入社前、TOEIC L&Rを受験してもらい、英語学習のきっかけづくりを行っています。受験後も継続して英語を学ぶ意欲のある希望者には教材を提供し、再度TOEIC L&Rを受験してもらっていますが、2022年度内定者においては、平均スコアが受講前と比べ約20点アップしており、英語学習に取り組むモチベーションの向上につながっています。

(資料5)

社内でのTOEIC L&Rの活用②(内定者向け英語教育) Hitz

内定者入社前教育

狙い
内定者全員に入社前にTOEIC L&Rを受験させ、英語学習に取り組むきっかけをつくる

流れ

TOEIC L&R受験 (オンライン・内定者全員)

↓

英語教材斡旋・受講 (申込制・希望者のみ)

↓

TOEIC L&R受験 (オンライン・教材受講者のみ)

自分の実力の把握
学習へのきっかけづくり

学習習慣づくり
スキルアップ

効果測定
モチベーションアップ

入社後も各種研修プログラムの提供によりさらなるスキルアップを支援

■ アウェーでもビジネスに打ち勝つために

課題と今後の取り組みについてですが、国内で製品が売れているからといって、海外でそれが通用するとは限りません。異文化である海外ではうまくいかないことがたくさんあります。グローバル人材とは、ア

ウェーの環境下でも商習慣に適応し、技術、ビジネス面でも競争に打ち勝つことができる、交渉力や行動力のある人材だと考えています。当社の谷所敬会長は年度挨拶などで職員に向けて、「もっと外に出る(視野を広く開く)」「事前準備をする(RepairよりPrepare)」「会って話をして本音を聞き出す(現場主義)」「約束を守る(信頼を得る)」「挑戦を続ける(個人の成長が会社の成長につながる)」といったキーワードを発信しています。こうしたことを意識し、常に安全・衛生・健康とコンプライアンスに注意し、役職員全員で頑張っていきたいと考えています。

最後に、本日参加されている学校関係者の方々に向けてですが、授業やゼミなどでの対話を通じて、多様性への理解やコミュニケーション能力を養っていただくとともに、一生学び続けて成長していきたいという意欲を学生たちが持ち続けるような教育を期待しています。当社でも教育制度としてさまざまな教育施策を実施していますが、学生の皆様には、社会人になっても勉強をし続けて新たな事業の創出に向けて活躍していただけることを願っています。

質疑応答

Q 採用の際に重視していることを教えてください。

A 当社の求める人材像は5つあります。1つ目が誠実で明るくコミュニケーション能力に長けている方。2つ目が広い視野、深い探究心を持ち、想像力に富む方。3つ目がチャレンジ精神と行動力のある方。4つ目が企業倫理を踏まえてフェアに仕事を進められる方。5つ目が仕事を通じた社会や地球環境への貢献意欲の高い方です。採用面接の際には、海外経験やTOEIC L&Rのスコアを参考にお伺いしていますが、合否の判定にはしていません。もちろん、グローバル事業に携わって活躍したいということであれば、学生時代から語学力向上に努めることは非常に大事なことだと思いますが、当社の場合はTOEIC L&Rを受験する機会や語学研修があるため、入社後から語学力や異文化力を身に付けてグローバルで活躍することも十分可能です。

Q TOEIC L&Rの受験を入社10年目まで全員必須とのことですが、10年目という設定理由を教えてください。

A 当社のキャリアプラン制度では、入社10年目までの職員に対して、業務遂行上の中心メンバーとして活躍していただくことを期待し、あるべき職員像に向けて計画的な育成を行っています。これを踏まえて10年目までを受験必須としています。ただし、それ以降でも受験を奨励し、希望者には自由にTOEIC L&Rの受験ができるようにしています。

TOEIC® Programを活用した 共通教育英語カリキュラムの10年

京都産業大学

共通教育推進機構 教授 全学必修英語教育主任 **松永 舞 氏**

共通教育推進機構 准教授 TOEICクラスコーディネーター **増田 将伸 氏**



松永 舞 氏

増田 将伸 氏

■ 文理10学部からなる一拠点総合大学

京都産業大学は、上賀茂神社よりも少し標高が高く、大変空気のよい場所にあります。文理10学部、学生数約15,000名を擁する一拠点の総合大学です。

本学の英語教育関連の動向としては、グローバル・サイエンス・コースの設置です。理系3学部を対象に世界で英語を活用して活躍できる人材を育成するコースで、英語で専門科目を学んだり、海外でインターンや研修を行います。他には、2023年度開始のアントレプレナー育成プログラムもあります。これは全学部を対象に、正課教育として起業家育成に取り組むという試みです。また、最近ではコロナ禍によりあまり盛んではなかった国際交流についても、留学を含め再開しつつあります。英語学習支援施策の一つとしてはグローバルコモンズという場所を学内に設置し、個別学習支援などを行っています。ここでは学生主体の英語によるディスカッションイベントなどが非常に盛んに行われています。

■ 必修英語カリキュラムの質保証

このようにグローバル化と英語にも力を入れている本学ですが、英語の基礎という位置付けにあたるものが必修英語カリキュラムです。日本人の先生が担当するTOEICクラスと、英語母語話者の先生が担当する英

語コミュニケーションのクラスがあり、実用的な英語学習を目指してTOEIC® Programを活用し、客観的に学習成果が見えるようにしています。受講対象は、外国語学部英語学科を除く全学部です。学生数にすると1学年約2,600～3,600名で、1,000名の幅があるのは入学定員が年々増加しているためです。カリキュラムの特徴は資料1の通りです。

(資料1)

必修英語カリキュラムの特徴

(*外国語学部英語学科を除く全学部(1学年約2,600～3,600人)が対象)

・【質保証】

- ・統一教材・試験(学年末にTOEIC L&R IPテスト)
- ・エキスパートによる指導(TOEIC L&R 900点以上)

・【上昇志向】

- ・習熟度別クラス編成(学部混合・25人前後)
- TOEIC L&R スコアでクラスレベルアップ・単位認定

1つ目の「質保証」は、全学部対象で開講クラス数が多いため、統一教材を使用し、TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R)の統一試験により、担当する先生によって差が出ないようにしています。各学年末には成果測定として、TOEIC L&R団体特別受験制度(IP:Institutional Program、以下 IPテスト)を受験料大学負担で実施しています。

また、エキスパートによる指導として、日本人の先生は全員TOEIC L&R900点以上かつ非常に指導力の高い方々です。指導体制は、専任教員・非常勤教員に加えて、

日本人と英語母語話者それぞれ20名程度の実学英語講師(有期専任)を採用し、週12コマの授業を担当してもらっています。チームでの学生指導を重要視し、実践報告やディスカッションといった体験型の研修会を毎年行っています。

■ 学部混合による習熟度別クラス編成

2つ目が「上昇志向」のカリキュラムです。習熟度別のクラス編成を行っていますが、1キャンパスに全学部がある本学の強みを生かして学部混合としています。学生にとっては入学してすぐ、さまざまな学部の学生と出会えるのを楽しんでいるようです。1クラスの学生数は25名前後とし、授業を進めやすい、受けやすいという状況を保っています。TOEIC L&Rのスコアによってクラスレベルアップや単位認定を行う取り組みもあります。資料2に2017年度以降のプログラムをまとめます。

(資料2)

TOEIC L&R 目標スコア	1セメ(1年春学期)	2セメ(1年秋学期)	3セメ(2年春学期)	4セメ(2年秋学期)
上級英語 600以上	プレゼンテーション I	プレゼンテーション II	ディスカッション I	ディスカッション II
	TOEIC I	TOEIC II	TOEIC III	TOEIC IV
中級英語 500以上	コミュニケーション I	コミュニケーション II	コミュニケーション III	コミュニケーション IV
	TOEIC I	TOEIC II	TOEIC III	TOEIC IV
初級英語 400以上	コミュニケーション I	コミュニケーション II	コミュニケーション III	コミュニケーション IV
	TOEIC I	TOEIC II	TOEIC III	TOEIC IV
基礎英語	コミュニケーション I	コミュニケーション II	コミュニケーション III	コミュニケーション IV
	総合 I	総合 II	総合 III	総合 IV
	TOEIC L&R IP (7月) (任意、受験料個人負担)	TOEIC L&R IP (1月) (受験料大学負担) *基礎は希望者のみ。	TOEIC L&R IP (7月) (受験料個人負担) *上級は必須(受験料大学負担)。	TOEIC L&R IP (1月) (受験料大学負担) *基礎は希望者のみ。

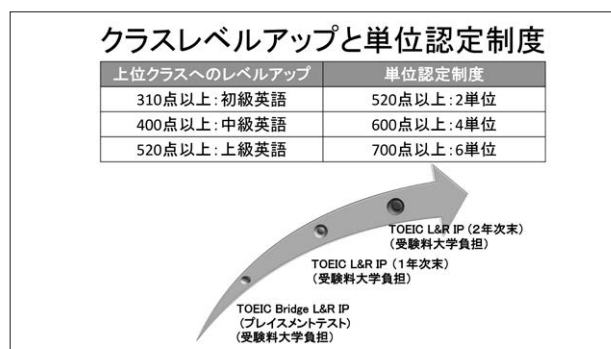
レベルは基礎から上級まで4つあります。2013年度から始まったプログラム当初は基礎レベルもTOEIC L&Rを扱っていましたが、検証の結果、TOEIC L&Rを受験するレベルには達していないと分かったため、2017年度以降は本プログラムの対象からは外しています。「プレゼンテーション」「ディスカッション」「コミュニケーション」は英語母語話者の先生が担当するコミュニケーション系のクラスで、「TOEIC」と「総合」の部分は日本人の先生が担当です。基礎レベルの総合で

は、主にTOEIC Bridge® Listening & Reading Tests(以下、TOEIC Bridge L&R)の内容を扱います。TOEICクラスでは各セメスター週1回1単位、2年間で4単位分なので、限られた単位時間を有効に活用する方策を常に考えています。

■ 英語学習へのモチベーションを高める工夫

「上昇志向」で紹介したTOEIC L&Rのスコアによるクラスのレベルアップは、毎学期レベルアップが可能です。例えば、310点以上をとったら基礎から初級に、520点以上であれば次の学期から上級に上がれます。ちなみにスコアによるクラスのレベルダウンはありません。また単位認定制度も導入しており、学生のモチベーションを向上させるような工夫をしています(資料3)。

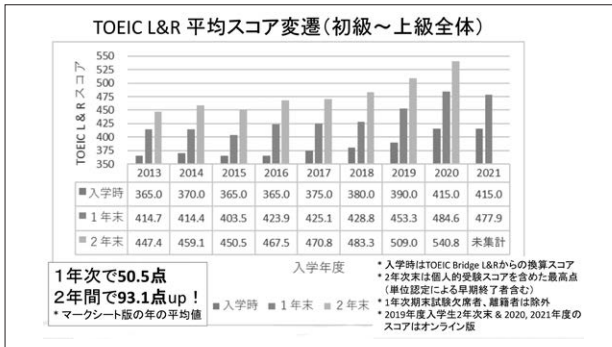
(資料3)



■ TOEIC® L&R平均スコアは2年間で93.1点相当アップ

必修英語カリキュラムの成果として、学生たちの学習成果を示すデータを紹介します。資料4はTOEIC L&Rの平均スコアの変遷です。

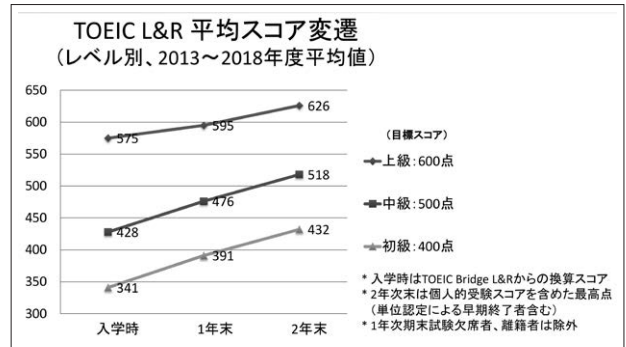
(資料4)



入学後2年間の共通教育課程における学生の平均点を年度ごとにまとめました。どの年も順調に入学以降スコアを伸ばしています。なお、TOEIC Bridge L&Rをプレイメントテストとして活用していることから、図表の入学時のスコアはTOEIC Bridge L&RをTOEIC L&Rに換算したスコアを載せています。1年次末のスコアは、1年次秋学期の期末試験としてTOEIC L&R IPテストを学内受験したものです。ただし、2年次末は単位認定制度によって授業をとらなくなる学生がいるため、期末試験スコアではなく、各学生が2年間で取ったベストスコアを載せています。マークシート方式で実施した2013年から2019年の平均点では、入学から1年間で50.5点アップ、2年間だと93.1点アップしています。共通教育課程で初級から上級全体の学生の平均の取り組みとしては、十分なスコアアップの成果と言えるのではないのでしょうか。

資料5は、初級、中級、上級のレベル別での平均点の変遷です。初級と中級は全体平均とほぼ同じで、1年間で50点、2年間で90点伸びています。一方、上級は入学時点ですでに平均が575点であり、初級や中級と同じような伸び率は難しいものの、1年間で20点、2年間で50点と着実に伸びています。

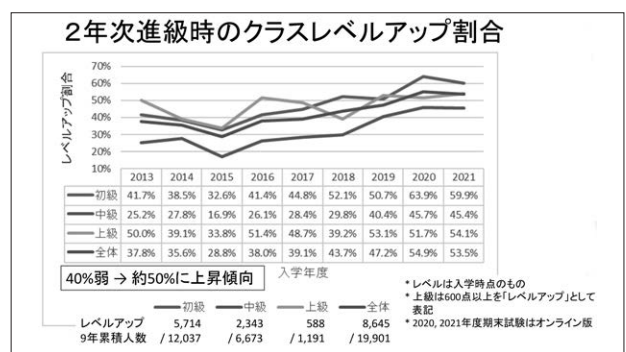
(資料5)



続いて個人の成長を紹介します。マークシート方式として現時点でデータがまとまっている中では直近の2019年度入学の1年次の結果ですが、最高スコアは965点、2位875点、3位825点とかなりの高得点です。入学時から1年間でのスコアアップのランキングでは、一番伸びた学生が325点です。2位、3位の学生も400点台から300点前後アップし700点台に到達しています。こうした取得スコアやスコアアップのトップ3の学生の学部は、外国語学部や国際関係学部だけというわけではなく、現代社会や情報理工、経済など文理問わない学生が高水準のスコアを残しています。

資料6のグラフは、クラスレベルアップの割合です。全学期通してレベルアップは可能ですが、最も受験者数の多い1年次が終わって2年次に進む時点でのデータを示します。一番上のクラスである上級では、目標スコアである600点に到達した学生をレベルアップとみなしています。

(資料6)



グラフは順調に右肩上がりになっています。当初全体平均では40%弱のレベルアップだったのが、近年では50%台に近づいてきており、9年間の累積人数では1年次の学年末で8,645名がレベルアップしています。学生の受講クラスが変わるレベルアップは、学生自身にとって成長を自覚しやすいものですし、レベルに見合った内容の教育を受けることで学生の力がさらに伸びることも期待できます。

2年次進級時の各クラスにおけるレベルアップの内訳は、2013年度から2019年度までの累積でみると、初級から上級へは3.3%、中級へは39.7%です。中級から上級へは29.3%、上級の600点到達者は46.7%となっています。

■ 成長を実感できるTOEIC® Program

学生アンケートの結果を紹介します。大学が実施している学習成果実感調査を基にしたものです。1年次初級、1年次中級、1年次上級、2年次初級、2年次中級、2年次上級という6種類のクラスでそれぞれ回答平均値を取り、2つの設問結果を資料7に記載しました。

(資料7)

学生アンケート回答平均値 (2021年度秋学期)	
<ul style="list-style-type: none"> この授業の学習を通じて、知識を得たリススキルを伸ばすなど、自らの成長を実感することができた。 	各レベル 4.0～4.4 / 5.0
<ul style="list-style-type: none"> 総合的にみてこの授業に満足している。 	各レベル 4.1～4.3 / 5.0
*「1年次初級」「1年次中級」「1年次上級」「2年次初級」「2年次中級」「2年次上級」各レベルの回答平均値	
成長を数値で実感できるTOEIC Programの利点 + 適切な指導の効果	

知識・スキル面での成長を実感できたかどうかという設問では、全レベルの回答平均値が4.0～4.4の範囲内です。総合的な授業への満足度も4.1～4.3と高いレベルです。TOEIC Programは自分の力が数値で出るため、学生たちの成長実感につながっているのではないのでしょうか。これはTOEIC Programを取り入れた教育

を行っている良い点の一つだと感じています。

自由記述欄では、肯定的な意見を記載してくれたのは405件で、説明の分かりやすさや、情意面、ピア活動といった3つの観点の評価が多かったです。ピア活動はペアやグループでの活動を授業に取り入れており、アクティブラーニングの一つとして評価されています。

なお、悪かった点を挙げた自由記述は70件と件数自体も少なく、最も多かった内容は課題の多さについてでした。力を付けるためには多くの演習を積む必要があるため、課題が多いという受け止め方をされるのはある程度仕方がないことだと思っています。一方で、演習量に関して肯定的な評価も多くあるので、基本的には良い点として評価されていると考えています。

■ TOEIC® L&Rを題材に 学び合いを通して段階的に理解を深める

授業内容について、1年次中級のリスニングとしてTOEIC L&Rのパート4を扱っている授業を例として紹介します。まず英文の意味をスラッシュごとに確認して、リピーティングで発音練習し、CD音声に合わせてオーバーラッピングしつつ、音声・表現を定着させます。その後、ペアでシャドーイングして相互にフィードバックを行います。TOEIC L&Rの題材を用いて、単に問題の数をこなして終わりということではなくて、その英文を使って段階的に理解を深め、仲間同士で学び合う授業を展開しています。

■ 4技能化で上位層の さらなる英語力強化を図る

最後に今後の方向性です。共通教育は専門課程に進む前の基本的な学力を固めてもらうものではあるものの、上位層の学生は確かな力を持っているのも事実です。今後は、共通教育過程であっても力を伸ばしていけるような機会を提供するべきだと考えています。

そこで、上位層の学生に対して英語力強化の機会をさらに提供するべく、2023年度から新しいプログラム「上級英語Plus」を開始します。上級クラスの上にもう一つレベルを作るといことです。この新しい上級英語Plusでは、TOEIC L&Rに加えてTOEIC® Speaking & Writing Tests(以下、TOEIC S&W)も扱い、英語4技能の習得を実現していく狙いです。概要が資料8です。

(資料8)

『上級英語Plus』の概要	
入学時のTOEIC Bridge L&R IP テストからの換算点で	TOEIC L&R 600点以上の学生対象(100名程度)
日本人とネイティブによる合計週2コマの授業(1年次)	日本人によるTOEIC L&R(700点を目標) ネイティブによるTOEIC S&W(S120/W140点を目標)
1年の学年末にTOEIC L&R/S&Wを受験	秋学期の学期末試験として、TOEIC L&R IPテストとTOEIC S&W IPテストを受験(受験料は大学負担)

上級英語Plusの対象になるのは、TOEIC L&R600点以上(入学時のTOEIC Bridge L&RスコアをTOEIC L&Rスコアに換算)の学生で、1学年100名程度と見積もっています。ここでは、合計週2コマの授業をするのですが、コマ数自体は他のレベルとも同じではあるものの、日本人の講師による授業はTOEIC L&Rを扱って700点を目標にします。英語母語話者が講師を務める授業はTOEIC S&Wを扱い、Speaking120点、Writing140点を目標にします。学年末の期末試験ではTOEIC L&RだけでなくTOEIC S&W IPテストを受験してもらいます(受験料は大学負担)。

なお上級英語Plusは1年次のみに対して実施するクラスです。というのも、本学の単位認定の仕組み上、TOEIC L&Rで600点以上の学生は単位認定で4単位取得でき、2年生での授業を受ける必要がありません。上級英語Plusの対象となる学生は入学時点でTOEIC L&Rで600点相当の力があるため、単位認定により1年生で早期終了できるはずで、1年次対象のクラスの設置だけでよいと考えています。もちろん、600点取れない学生も出てくるかもしれませんが、その場合は2年次で上級レベルに入って継続受講してもらいます。

質疑応答

Q 共通教育必修英語科目としてなぜTOEIC Programを導入されたのでしょうか。

A 本学は就職する学生が圧倒的に多いため、就職時、就職活動に役に立つ英語としてTOEIC Programを導入しました。TOEIC Programの教材を取り入れる際には、学生間の協働学習や、自ら学ぶ姿勢、英語力を伸ばすことを重視しています。また、TOEIC Programは社会で通用する英語力を意識し、身に付けるには最適で、語彙、内容、音声のスピード、文章量といった点でも教材として非常に優れています。学生にとってはチャレンジングな部分はあるものの、限られた授業時間と単位数で最も効果のある良い選択だと思っています。

Q 上位層の学生に対し、新しい取り組みとして4技能化を考えるに至った経緯を教えてください。

A 本学の英語教育は、これまでも4技能をカバーしていますが、今後社会でさらに求められる発信力を高め、4技能をまんべんなくスキルアップし、TOEIC L&R、TOEIC S&Wの両方のスコアを持って学生たちには社会に出て欲しいと考えています。TOEIC S&Wは非常に難しいテストではありますが実用的で、発信力を数値化させることで学生の動機づけにつながると考え、TOEIC S&Wを取り入れることにしました。

Q TOEIC L&Rのスコアによる単位認定の際どのように評価していますか。また、習熟度別クラスの成績評価で学生たちに不公平感を抱かれないような工夫があれば教えてください。

A 単位認定は成績には入れず、GPAからも外れています。習熟度別クラスの成績評価では、スコアが高いクラスが成績も結果として高くつくように平常点(小テスト、課題、参加点など)を調整しています。こうした調整があることは学生にもシラバスに掲載することで周知しています。担当者全員での調整は学生間で不公平感が出ないために必要だと心掛けて行っています。

熊本大学工学部の卒業研究着手要件への TOEIC® L&R スコア導入の挑戦と成果 ～工学部だからこそ求めたい実践的英語教育～



熊本大学

大学院先端科学研究部 教授 藤吉 孝則 氏

■ 地域に根差し、国際的に存在感を示す 総合大学

本学は熊本県熊本市にあり、細川藩の藩校「再春館」から約260年、第五高等学校から130年という非常に歴史の長い大学です。戦後に国立熊本大学となり、2004年に国立大学法人となりました。

大学の教育理念は、「総合大学として知の創造、継承、発展に努め知的、道徳的及び応用的能力を備えた人材を育成することにより、地域と国際社会に貢献することを目的とする」というものです。また、「創造する森 挑戦する炎」をコミュニケーションワードとしています。

続いて工学部についてです。本学の7学部のうち最も大きな学部で入学定員513名です。土木建築学科、機械数理工学科、情報電気工学科、材料・応用化学科という4学科があります。各学科で3つの専門教育プログラムを設置しています。

■ 工学部をあげて実践的英語教育の充実化

工学部の教育目的は資料1の4つ目の通り、実践的英語教育の充実化を掲げています。

(資料1)

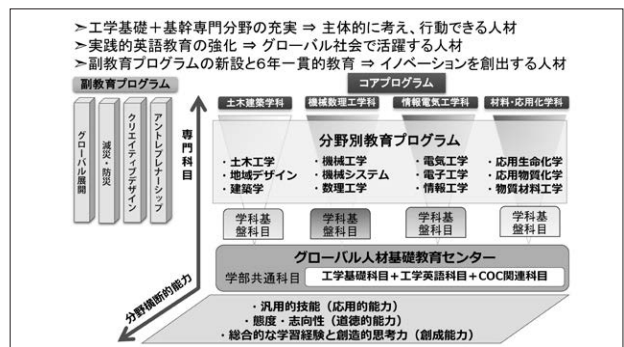
熊本大学工学部

教育目的

1. 共通の基礎教育科目を有する専門分野を中括りした4つの学科に編成し、それぞれ3つの専門教育プログラムを設置し、その充実を図る。
2. 各教育プログラムに対して分野別の到達目標を設定することにより学士力の質保証を行う。
3. 1年次に工学基礎科目、分野別の学科基盤科目などを配置した上に、分野別の到達目標を備えた教育プログラムを用意し、専門分野への配属は2年次とするLate specializationを導入し、学生の選択肢を増やす。
4. 実践的英語教育を充実する。

この教育プログラムを図にしたものが資料2です。入学後、学科基盤科目をしっかり学び、自分の専門性を見定めてもらった上で、2年次に3つの教育プログラムへと分かれていきます。これによって主体的に考え、行動できる人材を育成しようと考えています。

(資料2)



また、自分の専門だけに偏らないように4つの副教育プログラムとして、グローバル展開、減災・防災、クリエ

イティブデザイン、アントレプレナーシップを設け、イノベーションを創出する人材を育成します。このプログラムは大学院博士前期課程まで続いていて、6年一貫で教育を行っています。

そして、教育目的にもあったように実践的英語教育に力を入れており、グローバル社会で活躍する人材を育てようと、グローバル人材基礎教育センターを工学部内に設置しています。ここでは学部共通科目として、工学基礎科目や工学英語科目、COC関連科目を受け持ち、応用能力や道徳的能力、創造的能力を養っていこうと考えています。

工学部における英語の必要性については、どの大学でも共通することではないでしょうか。論文を読む、国際会議での発表、英語での論文執筆、留学生とのコミュニケーションなど多岐にわたる場面で英語が求められます。もちろん就職活動でも英語の必要性が高まっていますし、大学院受験でもTOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R)の正式スコアを課す場合があります。

工学部では、留学に行く学生への支援を行っていますが、その支援の順位を決める際にTOEIC L&Rなどの外部英語試験のスコアを使っています。後ほどお話ししますが、工学部の英語の授業の中でもTOEIC L&Rのスコアを一部授業の評価の中に組み込んでいます。また、今日の本題である卒業研究の着手要件にもTOEIC L&Rのスコアを活用しています。この英語教育充実化と卒業研究着手要件を導入したきっかけになったものが、2014年の文部科学省スーパーグローバル大学創生支援(タイプBグローバル化牽引型)「地域と世界をつなぐグローバル大学Kumamoto」への採択です。

■ 要件化に踏み切るまで

TOEIC L&Rスコアの卒業研究着手要件化する以前、2016年度入学生までの状況や課題についてです(資料3)。当時、工学部としてはグローバル化を目指して学生の実用英語の実践能力向上を目標とし、全学的

にもスーパーグローバル大学創生支援申請に向けて取り組んでいました。そこで工学部では2年次の英語をTOEIC L&Rスコアの向上を目指した英語教育に転換しました。2年次の前期後期にTOEIC L&Rの団体特別受験制度(IP:Institutional Program、以下 IPテスト)による受験を必須化し、該当科目の成績評価の必要条件としました。つまり、TOEIC L&R IPテストを受けないと英語の単位が取得できないということです。また、当時の3年次における工学英語科目もTOEIC L&R IPテストの受験を成績評価の必要条件として、TOEIC L&Rのスコアの改善のためにe-Learningの教材を導入し、学習をサポートしました。学科が指定する一定数のセッションをクリアすることも成績評価の必要条件、つまりe-Learningを必ず何セッションかやってもらうことを学生に課しました。これらの取り組みを行ったにもかかわらず、2年次後期から3年次前期、3年次後期までのTOEIC L&Rのスコアは平均ベースではほとんど向上させることができませんでした。

(資料3)

要件化前(2016年度入学生まで)の状況や課題

1. 工学部としては、グローバル化を目指し、学生の実用英語の実践能力の向上を目標としている。
2. そのために、2年次英語(C3とC4)*でTOEIC L&Rスコア向上を目指した英語教育に転換。2年次の前、後期にもTOEIC L&R IPテストの受験を必須とし、当該科目の成績評価の必要条件とした。
3. 3年次は工学英語Ⅰと工学英語Ⅱ*でもTOEIC L&R IPテストの受験を成績評価の必要条件とし、TOEIC L&Rスコア改善のためにe-Learningを導入して学習をサポート。学科が指定する規定数のセッションをクリアすることも成績評価の必要条件にしている。
4. にもかかわらず、2年次後期から3年次前期、3年次前期から3年次後期のTOEIC L&Rのスコアは平均ベースではほとんど改善されなかった。

*現在は2年次英語科目:工学英語Ⅰ・Ⅱ、3年次英語科目:工学英語Ⅲ・Ⅳ

■ 450点を基準に2017年度入学生より卒業研究着手要件導入

何らかの到達目標か制約を課さないと学生がこれ以上努力する、モチベーションを高めるということが見込めないと判断し、工学部ではTOEIC L&Rスコアが一定の基準を超えないと卒業研究に着手できないという、卒業研究の着手要件化に踏み切りました。一般にグローバルで活躍するのに必要な大学卒業直後の最低

スコアは550点と当時言われており、この550点は多くの大学でも参照評価点として使われていました。これらを参考に工学部では4年次進級時の標準点を450点と定めて導入しました。要件化は2017年度入学生からの導入・適用としました。要件化自体は2016年に決定し、その後すぐに告知して開始しました。もちろん議論には3、4年という長い時間がかかっています(資料4)。

(資料4)

- 何らかの到達目標か制約を課さないと、学生がこれ以上の努力をする、モチベーションを高めることは見込めない状況にあり、工学部としてTOEIC L&R(TOEIC L&R IPテストを含む)スコアを卒業研究の着手要件に導入することに決定した。
- 一般的に、グローバルに活躍するのに必要な大学卒業直後の最低点が550点と言われ、多くの大学でも参照評価点として使われているので、4年進級時の基準点は450点とした。

➡ 平成29年度(2017年度)入学生より適用
(平成28年度に決定し、平成28年度から告知)

資料5は学生便覧で学生に示している卒業着手要件の一部です。もちろんある単位数以上習得していないと4年次に進級できないのですが、これに加えて、TOEIC L&Rで450点以上をクリアしないと進学できません。ただし、TOEIC L&Rは学内で実施するTOEIC L&R IPテストを含め、卒業研究着手可否判定の前々年の3月1日から起算して2年間以内のTOEIC L&R450点以上取得としています。つまり、学内で受験したIPテストだけでなく、公開テストのスコアでも可としました。

(資料5)

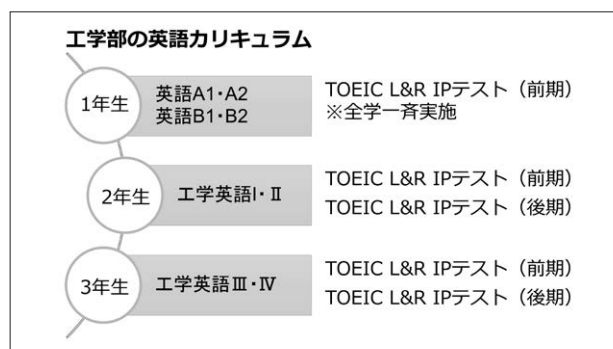
卒業研究着手要件		土木建築学科	機械理工学科	情報電気工学科	材料・応用化学科							
教育プログラム名		土木工学	建築学	機械工学	機械システム工学	数理工学	電気工学	情報工学	応用生命化学	応用物質化学	物質材料工学	
専門科目	必修	50	51	58*	50*	50*	37	50*	56*	50*	68*	48
	選択	15	14	—	—	—	10	—	—	—	—	18
	自由選択	20	20	15	28	28	25	18	18*	28*	—	—
	計	85	85	73	78	78	72	74	74	78	80	76
卒業研究着手単位		117	117	105	110	110	104	106	106	110	112	108
その他の要件		TOEIC 450点以上取得*										

※6) TOEIC L&R IPテストを含み、過去2年(卒業研究着手の可否判定の前々年の3月1日から起算して2年。)以内にTOEIC L&R450点以上を取得していることを要件とする。

■ 1年次の教養教育と2、3年次の工学英語で TOEIC® L&R IPテスト実施

当然ながら工学部の英語教育も要件化に向けて改革していく必要があります。資料6に工学部の英語カリキュラムをまとめました。1年次は教養教育の英語教育で4科目あります。入学時の状況を知るために入学してすぐにTOEIC L&R IPテストを全学で実施しています。2、3年次の工学英語は現在、合わせて4科目あるのですが、ここでも2、3年次の前期、後期でのTOEIC L&R IPテスト受験を必須とし、これを受けなければ工学英語の単位が取れないということとしています。

(資料6)



■ 工学部の英語カリキュラムも改革

2年次の工学英語はe-Learningを用いた個別学習と授業中の演習で構成しています。このe-Learningを用いた個別学習はTOEIC L&Rに準拠したe-Learning教材を工学部独自に導入しています。授業中の演習では、英語フレーズの演習を単語教材を活用し、実施しています。この他、副教材としてVoice of America(VOA)の理系トピックスを用いたリスニングの小テストを必ず毎回課しています。

先ほど紹介したように、2、3年次の工学英語の4科目ではTOEIC L&R IPテストの受験が必須で、成績評価の一部にしています。e-Learningを導入した受講コースについては500点突破コース、600点突破コース、720点突破コースの3つを用意しており、各自のレベル

にあったコースを選んでもらっています。主教材のe-Learningは大学だけではなくて自宅からでも24時間学習が可能で、時間と場所を選ばずに学ぶことができるようにしています。副教材のVOAもフリーの学習支援ソフト・Moodleを介して、自宅で復習が可能です。英語が苦手な学生に対してはカウンセリングなども実施しています。

資料7は2年次の工学英語IIのシラバスの一部抜粋ですが、450点程度の英語力の修得を成績評価における「可」の水準とし、TOEIC L&Rで600点程度の英語力を修得すれば「優」の水準としています。成績評価はTOEIC L&R IPテストのスコアを50%、教員による評価を50%という割合で行っています。

(資料7)

工学英語II		※シラバスより一部抜粋
学習目標	A水準(到達すれば「優」に相当) 履修条件を満たし、TOEIC600点程度の英語能力を修得すること。 具体的には、下記の「評価方法・基準」で80%以上の評価を取得すること。 C水準(到達すれば「可」に相当) 履修条件を満たし、TOEIC450点程度の英語能力を修得すること。 具体的には、下記の「評価方法・基準」で60%以上の評価を取得すること。	
評価方法・基準	成績評価は、TOEIC-IP試験のScore(50%)と教員による評価(50%)により行う。教員による評価は、学習状況、副教材・英語フレーズ演習の成績を総合して行う。ただし、履修条件の3項目をいずれか1つでも満たさない受講者は、再履修となる。	
履修条件	(1) 総授業回数の3分の2以上の出席があること。 (2) この授業を受講する学生のために実施されるTOEIC-IP試験を受験していること。(TOEIC公開試験の結果は認めない) (3) 主教材(「学習ユニット・Step1, 2, 3」。「Review: Part 別 Review(ミニサイズ模擬試験含む)」。模擬試験4回)を授業最終日の23時59分までに達成していること。	

■ 要件化によって最高スコアの平均点は約50点アップ

ここからは、TOEIC L&R IPテストのスコアがどのように変わってきたかを紹介します。1年次前期から3年次後期までに複数回受験したTOEIC L&R IPテストのうち、最高スコアの平均点を入学年度別で比較すると、卒業研究着手要件化導入前の2011年度から2016年度は、全体では465.8点～502.9点で推移しており、なかなか上がらないという状況でした。それが要件化導入後の2017年度では542.4点、2018年度では554.5点と急激にアップしています。つまり、2016年度のTOEIC L&R IPテストのスコア要件化前と2017年以降の要件化後で50点程度の点数が上がっています。

最高スコアの分布についても、2016年度の導入前は平均点がなかなか上がらず、450点付近を前後していたのですが、それ以降は要件化により450点を越えないと進級することができないため、最高スコアの平均点が上がっているのが見て取れました。

入学年度別のTOEIC L&R平均スコアの推移をみても、導入前の2016年度入学生は1年次後期から3年次後期までで33.7点のアップと、若干上昇しているもののなかなか上がらないという状況だったのが、2017年度では1年次以降順調に上昇し、3年次後期までに71.6点アップしています。2019年度入学生も同様に順調にスコアが上がり1年次後期と3年次後期で比較すると96.9点アップしています。

以上をまとめると、卒業研究着手にTOEIC L&R450点以上を要件化したことで、2017年度以降の入学生のTOEIC L&Rのスコアや最高点が上がりました。最高スコアの平均点としては50点以上上昇しています。

本題とは関係ないのですが、後期入学者の方が他の入試日程の入学者よりもスコアが高いという傾向がありました。また、工学部では3年次編入試験も行っていますが、3年次編入試験での編入生は他学生に比べて学習期間が短いということもあってか、少し低い傾向があります。

■ さらなる学生の英語力向上に向けて

今後の展望です。2019年度の卒業生に修得感についてアンケートを行ったところ、グローバルな視野の項目では、英語を使う力、汎用的な知力の項目では、統計数理の知識・技能で特に満足度が高くありませんでした。就職先企業からのアンケートにおいても、この英語を使う力と統計数理の知識・技能の項目は他に比べて低い評価を受けています。

本学では全学のリテラシーレベルにおいて初期的な対応は実施しておりますが、これを受けて、統計数理の能力に力を入れるべく、さらに基礎応用レベルの発展としてデータサイエンスの教育に力を入れていこうと

ということで現在改革が行われています。同様に、グローバル化としても、文学部、法学部、工学部のグローバルリーダーコースを強化していこうと考えています。

工学部の英語教育の充実化を図る背景としては、本学の小川久雄学長からのメッセージとしても全学的なグローバル化の推進が発信され、英語運用能力向上の教育資源の強化に全学的に取り組んでいこうとしていますし、半導体受託生産世界最大手であるTSMCの熊本進出に代表されるように、以前からこういった半導体関連企業が進出している状況もあります。

本学のグローバル化推進について小川学長が発信したメッセージとしては、今後グローバル力養成のさらなる強化が必要不可欠であるとの認識のもと、2022年度からの第4期中期目標・中期計画を進めています。その中で、「全学生がデジタルサイエンス、数理・データサイエンス及び国際対話のリテラシーを身に付ける教育を行う」ことを掲げ、全学生の10%をTOEIC L&Rで730点以上にすることを謳っています。

そこで工学部では、2023年度以降の対応として、完全な決定ではありませんが、卒業研究着手要件のTOEIC L&Rのスコアを現在の450点から、500点に引き上げることを検討しています。450点から500点の学生は仮進級という形にして英語の特別授業を受講することを必須とし、卒業までの500点クリアを要件化するというものです(資料8)。

(資料8)

熊本大学長 小川 久雄 本学のグローバル化推進について

我が国の大学教育において、今後、グローバル力養成のさらなる強化が必要不可欠であるとの認識のもと、令和4年度からの第4期中期目標・中期計画の前文においても「全学生がデジタルサイエンス、数理・データサイエンス及び国際対話のリテラシーを身に付ける教育を行う」ことを謳っております。また、この目標の達成にむけ、中期計画B-4-1では、本学が定めた英語力基準を満たす学生を第4期末(令和9年度)までに全学生の10%とすることを目指すべき到達点に位置づけ、「学生の英語力」の向上に取り組むことを約束しております。

➤ 令和5年度以降の工学部での対応

現在、TOEIC L&Rのスコア要件を500点に引き上げ、450～500点の間の学生は仮進級として、英語の特別授業を受講することを必修科目として課し、卒業時までに500点をクリアすることを卒業要件とする案について検討している。

質疑応答

Q 要件化実行までに学内の理解はどのように得られていったのでしょうか。

A 委員会などで3、4年かけて議論しました。最終的にはTOEIC L&Rのスコア要件化導入に対して強く反対する意見がありませんでしたので、工学部長のリーダーシップの下、決定したということになります。

Q 半導体関連の外資系企業の熊本進出が話題ですが学生や教員の英語学習に対する姿勢や意識に変化はありますか。

A 明確なエビデンスはないのですが、やはり今回のTSMCの熊本進出に伴って学生、先生ともに意識は変わっているかと思えます。先生方としては授業でさまざまな工夫をされているので、意識改革などは進んでいるのではと考えています。

Q 卒業研究の着手要件にTOEIC L&Rで450点に満たなかった学生の現状とその対応を教えてください。

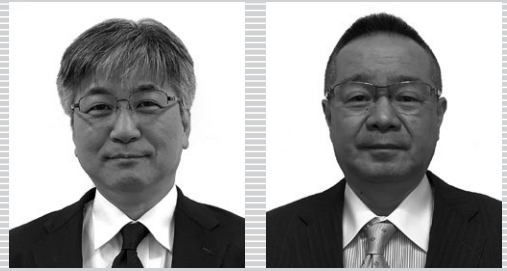
A 卒業研究に着手できなかった学生は2種類あります。専門単位自体も取れず、さらにTOEIC L&Rのスコアも取れなかった学生と、単位はそろっているがTOEIC L&Rだけ達していなかった学生です。単位を取得できなかった学生に対しては、取得できるように頑張ってもらうこととなりますが、スコア基準に達していないという学生に対しては、カウンセリングやセミナーなども開いて学生を支援しています。なお、スコアが取得できずに留年する学生は年間一桁台の人数ということになっております。

国際学部における 早期全員留学の制度と TOEIC® Testsの活用

近畿大学

国際学部 教授 国際学部長補佐・教務委員長 **高木 宏幸 氏**

国際学部 教授 国際学部留学委員長 **大村 吉弘 氏**



高木 宏幸 氏

大村 吉弘 氏

■ 国際学部は約1年間の留学が全員必須

東大阪市にある本学のメインキャンパスには10学部、1短期大学があり、約24,000名の学生が学んでいます。他にも西日本に5つのキャンパスがあり、全体で学生数が約34,000名です。

国際学部は東大阪市のメインキャンパスにあり、2016年に開設されました。留学と多彩な科目の学修を通して、国際人としてふさわしい語学力、教養、専門性を身に付け、異なる文化や社会の架け橋となる人材の育成を目標としています。国際学科の1学科で、1学年の定員が500名なのですが、そのうちの450名が英語を専修言語とするグローバル専攻です。残りの50名が韓国語または中国語を専修言語とする東アジア専攻となります。

カリキュラムの大きな特徴として、1年次から2年次にかけて全員が約1年間の留学プログラムに参加することを必須としています。留学先の学期によりますが、グローバル専攻の学生は米国の2セメスター、つまり約8~9カ月間の留学です。東アジア専攻の学生は丸1年間の留学が必須となっています。この留学プログラムを核に語学力だけでなく多様な価値観の育成を目指しています。

本日紹介するグローバル専攻は、卒業時にTOEIC® Listening & Reading Test(以下、TOEIC L&R)で800点の取得を目標としています。また、留学経験を生かした専門教育を3年次以降幅広く開講し、

多くの専門科目を英語で実施しています。これらの科目は交換留学生の受け皿にもなっており、3・4年次に交換留学生とともに学ぶことを通して、英語力にさらに磨きをかけていきます。

卒業生の資格取得や進路については、2016年の開設であるためあくまで参考情報として紹介します。資格取得については、英語の授業が非常に多いことから中学高校の英語教員を目指す学生が1年次では約2割いますが、実際に教員免許を取得するのは、約1割という状況です。また、日本語教員や旅行業務取扱管理者などの資格を取る学生も多いです。

進路については、航空関係・観光業界を目指す学生が非常に多い学部なのですが、コロナ禍ということもあり近年、旅行関係、航空関係への就職状況は厳しくなっています。商社や外資系を含む民間企業、海外との取引が非常に活発な企業などに就職する学生も多いです。その他、メディア関係や教職に進んだり、大学院に進学する学生もおります。

グローバル専攻における4年間の学びとしては、1年次前期は留学に備える時期です。留学のためのさまざまな手続きに時間がかかります。そして1年次後期から2年次前期に全員がアメリカへ2セメスター留学することになっています。そして帰国後、自分の専門としてさらに学びを深めたい分野を選び、3・4年次では専門領域の学修を深めていきます。留学で身に付けてきた語学力をもとにビジネスでも役立つ実践的な英語力をつけることにも力を注いでいます。

語学学修についてですが、まず、入学式前後にプレイ
スメントテストを全員に受験させ、初級、中級、上級の3
つのレベルに分けて、各レベルに合った授業を実施し
ていきます。

1年次前期には、留学先であるアメリカの語学学校か
ら教員を招へいして、現地で実施しているカリキュラ
ムに近い形で英語の授業を実施します。そのため、グ
ローバル専攻の学生に対しては本学の教員ではなく、
留学先語学学校の教員が日々の授業を担当する体制
になっています。このように入学後にさっそく留学先と
同じようなカリキュラムで学修することで、留学先で
の学びへとスムーズに移行するようにしています。

なお、どのレベルから学修を開始したかによって、留
学の後半の学修の形態が異なります。上級の学生は留
学前半で語学のレベルは全て終えてしまうため、現地
の大学に入り、その学部の科目だけを学修します。中級
は1科目だけ現地の学部の授業を受講することが許可
されます。初級は語学学校での英語の学びを継続する
というものです。

■ コロナ禍での留学への影響

コロナ禍により、この3年間は留学がスムーズに実施
できていませんでした。まず2019年度入学生の出発は
通常通りでしたが、帰国が本来は2020年4月から5月
を予定していたところ、1カ月早く帰国することになり
ました。最も大きな影響を受けたと言える2020年度入
学生は、緊急事態宣言の発出もあり、留学は延期になり
ました。国際学部は留学が必須というプログラムなの
ですが、この年度の学生には留学必須を免除し、本来留
学しているはずの1年次後期に学内で留学時と同じ形
で英語プログラムを実施しました。さらに希望者には1
年遅れて4カ月という通常の半分の期間だけ留学を実
施したところ、約1/3の学生が参加しました。

2021年度入学生も本来予定していた9月からの留
学が実施できず、約半年後に実施したところ、約2/3の
学生が参加しました。この学年も留学必須を免除して

います。そして2022年度入学生は、通常通りでの全員
留学を再開することができ、グローバル専攻の全学生
が現在、アメリカに留学中です。留学自体は復活できた
ものの、留学先の語学学校の拠点数が減少し、滞在先
の確保が非常に困難な状況です。一校あたりの本学の
学生数が多くなり、留学先でも周りには本学の学生ば
かりというケースもあります。コロナ禍で大学に行くこ
とを保留していたアメリカ人が大学に戻ってきたこと
で、留学生に回してもらえる滞在先が少なくなり、2人1
部屋だった大学の寮が1人専用が変わってしまったと
いうこともあるようです。

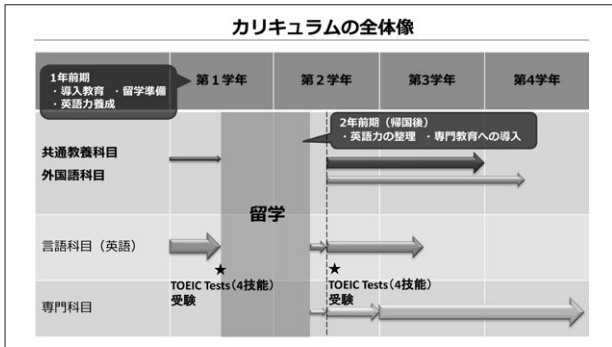
学生たちは留学を経て、多様な価値観に触れて進路
選択に変化が生じてきます。留学自体は意義深いもの
ですが、留学することだけを目的にしてしまい、帰国後
のモチベーションをなくしてしまう学生も少なからず
見受けられます。今後の展望として2023年度以降は、
キャリアを意識した指導を入学時から実施していきたい
と考えています。留学先で語学レベルの最上級まで
到達してしまうような学生に対しては、現地企業の視
察やインターンシップの導入を検討していきたいです。

■ グローバル専攻における TOEIC® Testsの活用

ここからは、グローバル専攻のカリキュラムの流れ
と、留学を核とするカリキュラムの中でTOEIC® Tests
(TOEIC L&RとTOEIC S&W)がどのように活用されて
いるのかを紹介します(資料1)。

カリキュラムの全体の流れとしては、まず留学前の1
年次前期に、少人数の英語のクラスを受講します。この
クラスは留学先語学学校の英語母語話者の先生が担
当し、6月頃にTOEIC Testsを受け、4技能を測定してい
ます。そして、留学終了後から2年次の夏期休暇までの
間に、TOEIC Testsの受験対策の授業を集中的に受講
し、再度TOEIC Testsを受験します。そして、3・4年次の
専門教育へとシフトしていきます。

(資料1)

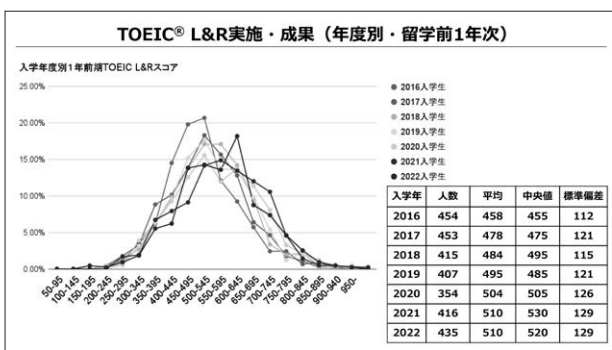


現在、学部は新カリキュラムへの移行中ですが、留学前の英語教育は変わりません。1年次前期は留学前の英語力を伸ばす授業科目を計9コマ用意しています。もちろん帰国後も英語力は伸ばしていかなければなりませんので、受験対策の授業を経てTOEIC Testsを受験します。

■ 留学前後で4技能のスコアは順調に伸びるが壁も

資料2は、1年次の留学前に受験したTOEIC L&Rのスコアを年度別にまとめたものです。ありがたいことに、平均値は少しずつ上昇しています。

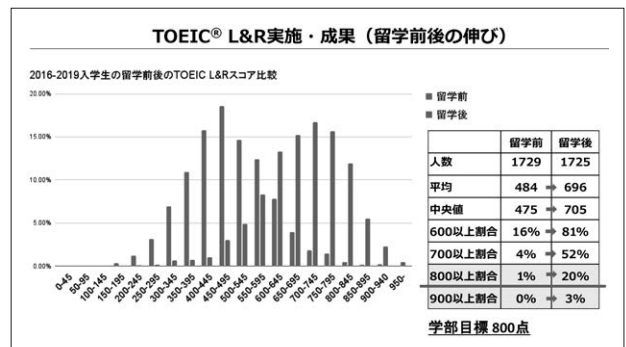
(資料2)



留学を核にしたプログラムですので、留学の成果を可視化しなくてはなりません。TOEIC L&Rの留学前後の伸びを資料3にまとめました。600点以上の学生は留学前16%だったのが留学後は81%に、700点以上の割合についても留学前の4%から留学後は52%と半数以

上になっています。800点以上の学生は留学前はほとんどいませんでしたが、留学後には20%にアップしています。とはいえ、8割程度の学生にとって、800点という学部目標を達成させるには帰国後のさらなるスコアアップが必要であり、プログラムを改善していかなければなりません。

(資料3)



続いて、入学年度ごとのスコアの平均です。学部を開設した2016年度と2017年度の入学生についてはほぼ同じで、留学前が471~485点、そして留学後が700~705点です。しかし、2018年度入学生では留学前のスコアが498点と少しアップしていますが、帰国後は700点となり、伸び幅としては202点でした。2016年度、2017年度は220~229点の伸びだったので、2018年の伸びは若干少ない印象です。

興味深いデータが2019年度入学生です。この学年は急遽コロナ禍によって帰国時期が早まって留学期間が約1カ月間短縮し、帰国後に受けるTOEIC Testsの受験対策の授業もオンラインに切り替わり、通常7月に受験していたTOEIC Testsも9月へずれ込んだ変則的な学年でした。こうした影響のためか、伸び幅も182点に留まっています。留学を核にカリキュラムを順調に進めることが非常に大切だと痛感した学年でした。

コロナ禍でさらに大きな影響を受けたと言えるのが2020年度の入学生です。1年次後期からの通常の留学は一切中止になりました。この学年は、2年次後期に希望者のみ4カ月の留学を実施しましたが、これにより、留学を辞退した学生と留学をした学生の英語力の伸びの比較対照ができた初めての年になっています。

TOEIC Testsは通常ほとんどの学生が受験するのですが、当時のさまざまな混乱もあって受験者数が少なく、その少ない受験者数の中から1年次と2年次の両方受験した学生をピックアップして数字を比較しました。1年次には334名が受験しましたが、2年次の帰国後にも受験したのは39名。そして留学を辞退した学生の中で両方を受験したのは156名ということになりました。

その比較を資料4にまとめました。1年次のスコアを比較すると、留学に参加した学生と辞退した学生の間に大きな差があり、辞退した学生の方がスコアは高いです。これは成績上位層の学生が、3年次などで参加する交換留学や派遣留学を目指そうと考え、コロナ禍での留学を見送る傾向が強かったためだと分析しています。

(資料4)

TOEIC® L&R実施・成果 (2020年度)				
1年次・2年次の両受験者195名の結果				
【考察】				
<ul style="list-style-type: none"> 初めて留学辞退者が生じ、留学の効果検証の機会となった 2020年度新入生全体の英語力は、例年と大きな差異なし 新型コロナウイルスの影響により、留学時期・期間・留学者数が例年と大幅に異なる 1年次のスコアで上位の層が留学を辞退する傾向 留学参加者のスコアは大幅に上昇し、辞退者を上回った 4か月間の留学であったが、Listeningの伸びが顕著 				
<p>2020・2021年度は留学有無や履修内容等、例年と異なる教育内容であったが、2022年度より、全員留学・通常カリキュラムを再開しており、コロナ前の英語力向上を期待。</p>				
<p><内訳></p> <ul style="list-style-type: none"> 留学参加者: 39名 留学辞退者: 156名 				
	留学	第1学年	第2学年	伸び
Total	参加	489	661	172
	辞退	525	646	121
Listening	参加	254	365	111
	辞退	283	355	72
Reading	参加	235	296	61
	辞退	242	291	49

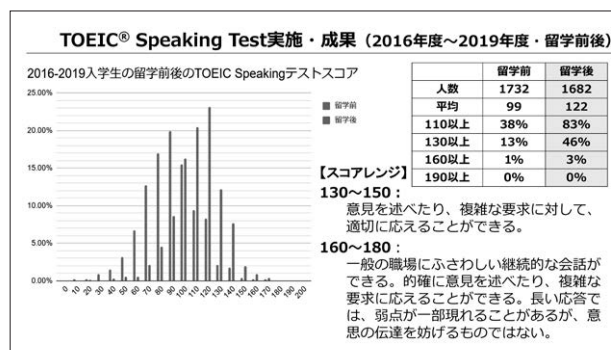
このように出発前は489点と525点という大きな差があったわけですが、帰国後のデータを比較してみると、留学した学生のスコアが661点、そして辞退した学生のスコアが646点と逆転しています。伸び幅としても留学した学生の方が非常に大きくなっています。人数に差はあるのですが、TOEIC L&Rを2度受験させることで、留学参加の有無で有意の差が生じたことが分かりました。

Readingでは、2年次の平均はほぼ差がなかったものの留学参加の方が伸び幅は大きいですし、Listeningでも同様に留学した学生が大きく伸びています。留学期間が4カ月と短くなっていますが、それでもしっかりと力をつけるようです。

ここからはTOEIC® Speaking & Writing Tests(以下、TOEIC S&W)についてです。1年次前期に受験したスコアの2016年から2022年までの総合データをみると、Speakingのスコアとしては、平均値が90~110くらいで、Writingのスコアは120~130となっています。TOEIC L&Rのスコアは年度を経るごとに継続的に伸びてきていたのですが、TOEIC S&Wはどの学年もほぼ同じで、なかなかTOEIC L&Rの伸びとの相関がみられないという印象を持っています。

留学前後でSpeakingのスコアがどのように変化するかを資料5にまとめました。留学前後で、110点以上の学生は38%から83%に、130以上では13%から46%にそれぞれ増加していますが、160点を超える割合はほとんど変わっていません。この160点以上のScore Descriptor Tableとしては、一般の職場でふさわしい継続的な会話ができ、的確な意見を述べたり複雑な要求に答えることができるというものです。このレベルをクリアするには大きな壁があるということです。帰国後のカリキュラムで160点の壁を乗り越えるための対策が必要だと受け止めています。

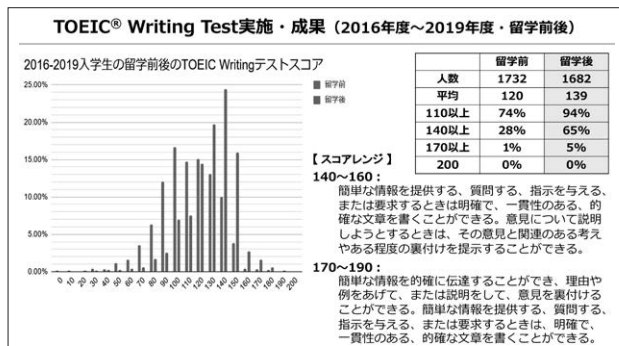
(資料5)



次にWritingのスコアです(資料6)。Speakingと同様に、留学前後で順調に伸びています。ただし、ここでも170点という大きな壁があります。140点以上の学生の割合は留学後65%なのですが、170点以上になると5%しかいません。この170点以上というのは、明確で一貫性のある的確な文章を書くことができる、といった能力ですが、このレベルに達して留学を終える学生は現在ほとんどいないということになります。今後のカリ

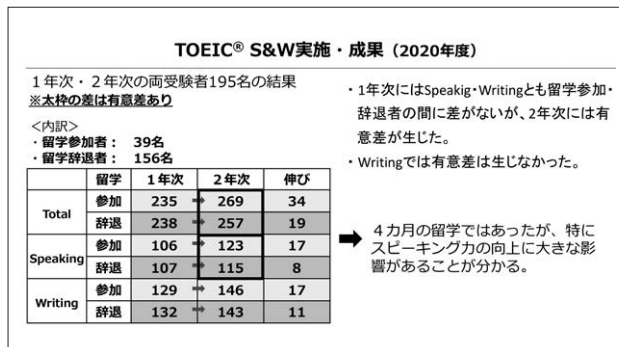
キュラムの改善につなげていきたいと思っています。

(資料6)



資料7は先ほども紹介した留学参加者と辞退者の比較対照ができた2020年度の入学生におけるTOEIC S&Wの実施・成果です。留学前はほぼ同じですが、留学後の伸びでは、留学辞退者の19点に対して参加者は34点と有意差が生じています。ただし、Writingの方では有意差はありませんでした。Speakingは4カ月の留学であっても大きな影響を与えているようです。

(資料7)



■さらなる上位層のレベルアップと留学を英語力強化につなげるために

今後の展望としては、グローバル専攻卒業時にTOEIC L&Rで800点以上のスコア取得を目標としていることを踏まえ、卒業時に50%程度が800点以上取れるような英語教育を目指していかなければなりません。Speakingは160点、Writingでは170点の壁があると紹介しましたが、この壁を破れる学生を育てて

いくためにカリキュラムの改善も進めていく必要があります。

Speaking力、アウトプットの教育が留学帰国後に求められているとの分析を踏まえ、新科目を導入しました。その一つがEnglish for Specific Purposesです。これは英語母語話者が担当する少人数クラスです。このクラスは、2年次の留学帰国後と3年次前期、後期にわたって、Writing SkillsとReading & Discussion Skills、Speaking & Presentation Skillsといった各々の学生ニーズに応じて履修できる選択科目を設置し、帰国後の4技能のさらなるレベルアップを図っています。

このようにTOEIC Testsを活用している背景としては、本学の理念である実学教育とTOEIC® Programとの親和性が高いということがまず挙げられます。そして国際学部は留学をコアにしたカリキュラムなので、英語4技能をしっかりと測定し可視化することが必要です。学生のモチベーションという点でも有益で、スコアアップを励みにしているようです。また、就職は当然TOEIC Testsが大きく影響するため、本学キャリアセンター主催のTOEIC L&R IPテストを多くの3・4年次の学生が受験しています。国際学部からも毎年200名程度、半数弱の学生がこのIPテストを受けて720点前後といった平均スコアを出しています。スコアは客観的指標としてカリキュラムの改善にも役立てていますし、TOEIC L&Rのスコアで言語科目のクラス分けを行なって適切なクラスで受講できるようにしています。

最後に補足として2021年度入学生の分析を紹介します。この学年もコロナ禍により2年次の前期に任意で留学を実施していることから、留学に参加した学生と辞退した学生の比較が可能になっています。ただ、この学年は帰国後半年経ってから2度目のTOEIC Testsを受験しており、期間をおいて受験するとどうなるのかという観点からみても、やはり留学参加の方が辞退者よりも圧倒的に伸びています。4カ月という期間を置いても留学の影響は非常に大きいという結果でした。

質疑応答

Q 留学前後の効果測定としてTOEIC Testsを実施されていますが、3年次以降の英語力は把握されていますか。卒業時点の学部目標達成に向けた施策について教えてください。

A 留学で培った実体験や文化経験をその後専門教育に活かしてもらうのをカリキュラムの基本的な考え方しておりますので、帰国後は徐々に専門的な内容の授業が多くなっていきます。ただ、学生たちには就職活動も見据えて、大学全体のキャリアセンターが実施している年3回のTOEIC L&R IPテストに積極的に参加するように指導をしています。国際学部の学生の約半数弱程度がこれを受けていて、720点前後のスコアを取っています。個人的には帰国後のスコアの伸びを体系的に把握するシステムが必要だと思っておりますが、現段階では帰国後もしっかりと英語力を伸ばすことができるように、カリキュラムの改善を進めているところです。

Q 1年次後期から全員留学を必須とされていますが、その時期の留学が適切だとする理由を教えてください。

A 1年次というこの多感な時期に、多様な価値観に触れて広い視野を身に付けることによって、将来について早い段階から考えられるようにするということを目指しています。国際学部の学生はこの1年間の留学だけでなく、3・4年次に交換派遣留学に応募することも可能なので、語学は学部からの留学で鍛えて、今度は専門分野の学修をするためにもう1年留学しても4年間で卒業できるというカリキュラムになっています。

発行月：2023年5月

発 行：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC)

東京

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル
TEL 050-1790-7422

名古屋

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル
TEL 050-1790-7419

大阪

〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル
TEL 050-1790-7417

公式サイト

<https://www.iibc-global.org>

ETS, the ETS logo, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. Portions are copyrighted by ETS and used with permission.



IIBC あなたが世界をつなぐ
あなたと世界をつなぐ

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication